

札幌大谷中学校・高等学校

2025 年度外部点検・外部評価

2026 年 4 月 23 日

2025 年度の学校方針に基づく教育活動・運営の年間反省（自己評価）の点検・評価

をいただき、次年度に向けての教育現場の改善を図るものである。

札幌大谷学園 監事

氏名 花輪 啓一



重点項目

(1) ガバナンス強化による学校教育改革の実践と入試対策

管理職会議での重要事案の審議ではガバナンス強化により効率的運営がなされ、また、学校業務及び組織のスリム化を図り、さらに積極的入試戦略を構築し、生徒募集の目標達成への組織全体で取り組んでいることは評価される。

(2) 2025 重要課題

「2026 年度中学入試目標」は医進・英数、アスリート、プログレース、アートの各コースの合計目標は 100 人であったが、実際に入学されたのは 88 人で、入試戦略の努力はみられるが充足率 88%であったことは、来年度の入試戦略において 2026 年度入学状況を分析し課題を明確にして次年度に取り組むとことを望む。

また、2026 年度から高校授業料無償化を受けて中高一貫校として高校が無償化されることで質の高い教育を 6 カ年間受けられることにメリットがあることをアピールしたことは、中学入試において志願者の増加及び入学者増に期待したい。

2027 年度に向けての中学入試では、コース制の見直し、安定的な生徒募集にあたりエミネンスコースでは 3 年次から医進・理系・文系（英数選抜）に別れて学習を計画、またプロジティ名称を廃止、大学の改組・改革において芸術に特化した芸術大学に名称変更を視野に学内連携強化として音楽専攻の生徒募集を復活させるなどで生徒数の確保に期待する。

「2026 年度高校入試目標」は、普通科・音楽科・美術科併せて 320 名で実際に、入学した生徒は 310 名で、その充足率は 96.9%で評価される。さらに次年度においては高校授業料無償化を挺に充足率を引き上げるよう努力してほしい。

2027 年度に向けての高校入試では、高校授業料無償化とともに札幌市内の中学 3 年生の大幅な減少もあり、本学の奨学金付与の在り方については生徒を確保も含めて根本的に見直しの検討がなされる必要があるように思われる。

(3) 高校進路実績の向上

国公立大学28名、私立大学239名、短期大学18名、専門学校46名、計331名進学されたことは大変喜ばしいことである。また、国公立大学合格目標30名であるが前年度同様28名で、一方難関私立大学合格目標10名のところ31名の合格者の結果は、前年度の3.9倍の合格者数であったことは大変評価される。しかしながら、札幌大谷大学・短大の合格者目標は50名のところ34名で目標達成率は68%で、更なる高大連携強化が望まれる。

(4) 学園としての施設整備の有効利用推進

音楽・美術に係る施設設備の有効利用では大学との連携の中で有効利用されているが、運動施設以外の施設の稼働率をたかめるような対策を講じるよう希望する

●教育事業

(1) 宗教的情操教育

生徒や教職員が仏教の教えに触れる機会を多く与え、全教職員が共有できる研修を実施している。

(2) キャリア教育の充実

進路指導部が充実したキャリア教育をし、次年度には教務部と進路指導部の連携を強化し、大谷独自のキャリア教育の構築を是非実現してほしい。

(3) 英語教育の充実

魅力的な英語教育の在り方について、Otani Morning English, オンライン英会話、英語学習ソフト「ELST」の活用、Global Studies Programの実施、海外研修プログラムの再開など、様々な取組みの実効性が認められたことは評価される。さらに若手英語教育者育成と中学分野と高校分野の英語教育充実を図ることは極めて大切であると考えている。

(4) 前例にとらわれない新しい学校作り

校則、従来の前例による業務等を根本から見直し、自ら考え、改革を積極的に進めていくことは大切であり、どこからかの部署から提案があったから改革を進めるのではなく自律的に積極的に学校教育業務を見直すべきことは自ら率先して改革する姿勢で臨んで欲しい。

●財務関係

財務計画では非常勤講師の持ち時間数減を図ったり、選択授業の合同開催を増やしたり、授業数を減らす工夫をしているが、学校経営の財務の健全化のためには、とりあえず「事業活動収支」のバランスが適正であることが求められる。次年度に向けて事業活動の収支バランスがプラス・マイナス 0 (ゼロ) を目標に予算執行にあたって欲しい。

以上